

---

# 大学教育学会ニュースレター

No.121 2022.09.22

---

一般社団法人大学教育学会 (Japan Association for College and University Education)

事務局：〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

TEL/FAX：(042) 707-8112

郵便振替口座：00210-9-102857 一般社団法人大学教育学会

E-mail: office@jacue.org URL: http://jacue.org

---

## 大学教育学会 2022 年度課題研究集会

### 統一テーマ

### アセスメントプランの導入と大学教育の課題

大学教育学会 2022 年度課題研究集会

企画委員会委員長

杉本 和弘 (東北大学)

なぜアセスメントプランを問うのか

—企画委員長挨拶—

2022 年度大学教育学会課題研究集会を開催するに際し、統一テーマを「アセスメントプランの導入と大学教育の課題」といたしました。

では、なぜ、今次の課題研究集会でアセスメントプランを問うのか。

アセスメントプランは、「学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、学位プログラム共通の考え方や尺度、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針」と定義されます（教学マネジメント指針）。

振り返ってみれば、日本の大学教育の質保証は 2000 年代から大きく展開してきました。事前規制から事後チェックへの転換とともに認証評価が導入され、近年は、機関レベルにおいていわゆる 3 ポリシーに基づく内部質保証、特に教学マネジメントの確立が政策的に推進されています。教育研究の質保証において、事前規制としての設置認可審査や大学設置基準は依然として少なからぬ影響力を有していますが、それと同時に、各大学が社会の負託を受ける形で自律的・主体的な活動を通して学生の成長を促し、その学習成果等の情報を公表することで、自ら質保証を実現していく必要性が高まっています。

こうした文脈の下、いま一度、アセスメントプランの導入・運用の必要性や意義を検討したいと思います。アセスメントプランは、今後の教学マネジメントにおいて 3 ポリシーと並ぶ重要な装置として機能するのか。アセスメントプランの導入によって、学生の学びや成長はどう促されるのか。今般のコロナ禍で拡大・普及したオンライン教育でも、アセスメントをどうするのかは課題の一つとなっています。

基調講演には、学生の学びに関する調査研究に携わられ、大学マネジメントにも造詣の深い矢野眞和先生（東京工業大学名誉教授）をお迎えし、近年の教学マネジメントの取組や課題についてご講演いただきます。その上で、開催校シンポジウムでは、先導的にアセスメントに取り組んでこられた大学関係者に登壇いただき、その取組・成果・課題について議論します。

今後の大学教育の質保証や教学マネジメントはいかにあるべきなのか、皆様と一緒に議論し、考察を深める場となることを期待しています。

# 大学教育学会 2022 年度課題研究集会

## 実施要項

統一テーマ： アセスメントプランの導入と大学教育の課題

主催： 一般社団法人 大学教育学会  
共催： 東京都立大学  
期日： 2022 年 11 月 26 日（土）～11 月 27 日（日）  
形式： Zoom によるオンライン開催

### 【スケジュール】

第 1 日（11 月 26 日）

10:00	12:15	13:00	13:20	13:30	15:00	15:10	17:00
ポスターセッション (同時双方向質疑応答)	休憩	開会行事		基調講演		開催校シンポジウム	

第 2 日（11 月 27 日）

9:30	12:00	13:00	15:30	15:40	16:00
課題研究シンポジウムⅠ、Ⅱ	休憩	課題研究シンポジウムⅢ、Ⅳ			閉会行事

### 第 1 日 11 月 26 日（土）

10:00 ～ 12:15 ポスターセッション ※同時双方向質疑応答

13:00 ～ 13:20 開会行事  
開催大学挨拶  
学会会長挨拶

13:30 ～ 15:00 基調講演  
演 題：「学習成果の多元性と教学マネジメントの課題」  
講 師：矢野 眞和 氏（東京工業大学名誉教授）

15:10 ～ 17:00 開催校シンポジウム  
テーマ：「アセスメントプランの導入と大学教育の課題」  
シンポジスト：  
① 山下 英明（東京都立大学副学長）  
② 浅野 茂（山形大学教授）  
③ 河本 達毅（桐蔭横浜大学副学長兼事務局長）

指定討論者：沖 裕貴（立命館大学教授）  
司 会：岡田 有司、近藤 伸彦（共に、東京都立大学准教授）

## 【ポスターセッション発表者一覧】

1. 遠隔授業におけるアクティブ・ラーニングの実態調査と教員支援用ハンドブックの作成  
前田ひとみ（目白大学）、西山里利（目白大学 非会員）、沼田真美（目白大学）、峯村恒平（目白大学）、矢野秀典（目白大学 非会員）、武田篤（目白大学）
2. ファカルティ・ラーニング・コミュニティ(FLC)の形成(3) —マイクロコミュニティを繋ぎ結ぶ—  
杉森公一（北陸大学）
3. 美術系大学における大学名の英文表記  
奥原正弘（放送大学）
4. 現場を持つ助産師の越境的なオンラインの学びの形成とその課題  
筒井洋一（大谷大学）、針ヶ谷美智子（ピュア一女性クリニック 非会員）、伏田綾（岡崎市立看護専門学校 非会員）
5. SNS と新聞を組み合わせた遠隔入学前教育の追跡調査  
中世古貴彦（九州産業大学）、小田部貴子（九州産業大学）、森誠子（九州産業大学）、高橋淳夫（読売新聞西部本社 非会員）、萩原智（読売新聞西部本社 非会員）、浜田昭彦（読売新聞西部本社 非会員）
6. アセスメントプランはいらない  
安岡高志（帝京大学）
7. コロナ禍で経験された大学での学びと学生生活 —2020 年度入学者に着目して—  
大野真理子（京都大学大学院）、勝間理沙（京都大学）、佐藤万知（京都大学）、中西勝彦（京都文教大学）、藤田風花（京都大学 非会員）
8. Student Success Program による支援が大学生の学習方略に与える効果 —Student Success 尺度による交差遅延効果モデルからの検討—  
山野洋一（立命館大学）、岸岡奈津子（立命館大学）、松本清（東京工業大学）、木原宏子（立命館大学）、立命館大学 学生部（石田明菜、渡邊あい子、茅根未央、深谷麻未、西田祐太郎、細川千絵、松浦祐子、一柳晋也）
9. 大学構成員相互の対話の場づくりをめざす体系的・計画的な教育評価・FD 実践 —大阪市立大学における教育・学修成果評価サイクルの構築過程からの検討—  
西垣順子（大阪公立大学）、飯吉弘子（大阪公立大学）、平知宏（大阪公立大学）、橋本智也（大阪公立大学）
10. ポストコロナの時代における教育・学修支援の専門性に関する探索的研究  
我妻鉄也（千葉大学）、岡田聡志（千葉大学）、松本暢平（千葉大学 非会員）、池尻亮子（千葉大学 非会員）、谷奈穂（千葉大学 非会員）、伊勢崎奈津子（立正大学）、加藤学（千葉大学大学院）、竹内比呂也（千葉大学）
11. コロナ禍前後における短期大学生の学修成果に対する評価とは —短期大学生調査結果経年比較—  
堺完（大分大学）、宮里翔大（桜美林大学）、山崎慎一（桜美林大学）、黄海玉（一般財団法人短期大学基準協会）
12. 高等学校におけるデータマネジメントの実態調査 —高大接続におけるトランジション研究への示唆を見据えて—  
山田嘉徳（関西大学）、三保紀裕（京都先端科学大学）、本田周二（大妻女子大学）、武田佳子（桐蔭横浜大学）、溝口侑（桐蔭横浜大学）、紺田広明（福岡大学）、森朋子（桐蔭横浜大学）、溝上慎一（学校法人桐蔭学園）
13. 発達障害のある学生の大学生生活継続に影響する環境要因の検討  
濱田里羽（金沢大学）、石隈利紀（東京成徳大学 非会員）、田村節子（東京成徳大学 非会員）
14. 大学生の学習動機に応じた主体的な学修行動の特徴 —学習動機パターンと優れた授業実践のための7つの原則に着目して—  
瀬崎颯斗（東京大学）、山田礼子（同志社大学）

15. 反転授業を導入したアカデミック・ライティング授業における教員による課題へのフィードバック回数と文章表現力との関連の検討  
三井規裕（鳥取大学）、野瀬由季子（関西学院大学 非会員）、福山佑樹（関西学院大学）、西口啓太（関西学院大学）、時任隼平（関西学院大学）
16. 大学におけるキャリア教育・リカレント教育の役割 ―職業能力開発行政の視点から―  
佐藤幸代（名古屋大学）
17. 日本の大学における教育担当教員のとらえられ方  
杉原真晃（聖心女子大学）、立石慎治（筑波大学）、蝶慎一（香川大学）、Kim Yangson（広島大学 非会員）、佐藤万知（京都大学）
18. オンライン授業による大学間連携の可能性 ―九州地区国立大学間連携事業「九州学」を例に―  
川越明日香（熊本大学）
19. 量的・質的調査結果から見た学生・教員間が共有する学びの場の状況 ―大阪市立大学における教育・学修成果評価サイクルの構築過程からの検討―  
平知宏（大阪公立大学）、橋本智也（大阪公立大学）、西垣順子（大阪公立大学）、飯吉弘子（大阪公立大学）
20. 留学プログラムを通じたグローバル・コンピテンシーの評価手法の検討  
大西好宣（千葉大学）、中村絵里（千葉大学 非会員）、松本暢平（千葉大学 非会員）、伊藤彰一（千葉大学 非会員）
21. 日本学術会議の文理融合論に関する一考察 ―文理融合から知の統合へ―  
竹永啓悟（名古屋大学）
22. 初年次教育におけるルーブリックを用いた複数の評価活動の組み合わせの効果  
大塚みさ（実践女子大学短期大学部）、三田薫（実践女子大学短期大学部）
23. シラバスの到達目標と学習評価欄に対する学生の認識調査  
根岸千悠（京都外国語大学）、田尾俊輔（大阪大学 非会員）
24. 公立大学における「地域愛教育」 ―公立大学法人の中期計画に注目して―  
橋本あや（山口県立大学）、川村和弘（北九州市立大学 非会員）
25. 異文化能力を高等教育プログラムに取り入れる試み  
MAZUR Michal（北海道大学）
26. 大学院修士課程への進学決定プロセスと影響要因について ―私立大学大学院の人文・社会科学系に着目して―  
森山寛（立命館大学）
27. 大学初年次における課題解決型演習の実践  
川谷維摩（北海道大学）、シュルーター智子（北海道大学 非会員）

9:30 ~ 12:00

**【課題研究シンポジウム I】 「大学教育における質的研究の可能性」**

本課題研究は、大学教育を対象とする優れた質的研究の事例収集と質的研究のあり方を探る方法的検討を行うことによって、大学教育における質的研究法の確立に向けた知見の提起を目指すものである。

本課題研究シンポジウムでは、大学教育を対象とした質的研究の文献調査について総括的な報告を行う。また、最終年度では大学教育における質的研究方法の普及に向けた取組の一環として、質的研究方法の事例集の提案に向けて議論を重ねてきた。その検討過程を中心に報告し、質的研究者が体験する研究実践のリアリティに迫ることを通して普及の手立てを見出したい。

最後に、本課題研究の成果と残された課題を踏まえ、本学会にとっての質的研究法の持つ意義や可能性について、会員の皆様とともに議論を深めたい。

企画者：山田嘉徳（関西大学）、森朋子（桐蔭横浜大学）、山咲博昭（広島市立大学）、谷美奈（帝塚山大学）、山路茜（岩手大学）、西野毅朗（京都橘大学）、服部憲児（京都大学）

司会者：西野毅朗（京都橘大学）

- ・ 大学教育を対象とした質的研究の文献調査の報告  
発表者：山田嘉徳（関西大学）
- ・ 大学教育を対象とした質的研究方法の事例集の提案（仮）  
発表者：谷美奈（帝塚山大学）、山田嘉徳（関西大学）、山咲博昭（広島市立大学）、山路茜（岩手大学）、西野毅朗（京都橘大学）、服部憲児（京都大学）
- ・ 課題研究の成果のまとめと残された課題  
発表者：山田嘉徳（関西大学）
- ・ コメント：佐藤浩章（大阪大学）
- ・ 総括：森朋子（桐蔭横浜大学）

**【課題研究シンポジウム II】 「大学教育・経営人材の育成・成長とそれを支える知の体系」**

学会課題研究「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」は今年 2 年目を迎えた。これまでに、課題研究集会および大会ラウンドテーブルで、大学院プログラム修了者の声を聞き、プログラムの設計・教育に関わった研究者らの経験を共有してきた。並行して、テーマに関連する既存の知見の整理を進めてきた。それらを踏まえ、今回の課題研究集会では以下の 4 点について議論を行う。

- (1) これまでに課題研究で蓄積してきた知見のレビュー
- (2) 大学教育・経営人材の育成プログラムの設計理念と実践
- (3) 大学教育・経営人材のアイデンティティ形成とキャリア
- (4) 大学教育・経営人材育成の国際比較

(1)については、これまでに実施してきた大会ラウンドテーブルおよび課題研究集会、研究セミナーや交流会で蓄積してきた知見の整理を、研究代表者が行う。(2)については筑波大学で長年履修証明プログラムの運営と実践に当たってこられた加藤毅氏から知見提供を行う。(3)については、これまでの大学職員研究

の知見のレビュー、および職員のアイデンティティや多様性、キャリアといった論点を巡って、井芹俊太郎氏と松村彩子氏が話題提供を行う。(4)については、今回は主にアメリカにおける高等教育分野の大学院教育について、清水彩子氏と研究代表者が共同で調査してきた成果を報告する。合わせて、イギリスの状況にも触れる。以上を受けて、大学組織・人材について専門的知見を有する中島英博氏にコメントを依頼する。

以上を通して目指すのは、大学教育・経営人材を巡る知の体系にアプローチすることである。それは大学に関わる人材育成にとって重要なテーマであると同時に、大学・高等教育研究のあり方を検討することにもつながる。すなわち、今回の課題研究集会では、大学教育・経営人材の育成・成長について考えることを通して、大学・高等教育を巡る知の体系に迫ることを目指す。これは、課題研究最終年度における検討課題へと繋がっていくことになる。

企画者：福留東土（東京大学）、井芹俊太郎（神田外語大学）、木村弘志（一橋大学・東京大学）、戸村理（東北大学）、中世古貴彦（九州産業大学）、栗原郁太（東京大学大学院）、河本達毅（桐蔭横浜大学）、林貴子（東京大学）、蝶慎一（香川大学）

発表者：加藤毅（筑波大学）、井芹俊太郎（神田外語大学）、松村彩子（名古屋大学・非会員）、清水彩子（東京大学・非会員）、福留東土（東京大学）

指定討論者：中島英博（立命館大学）

12：00 ～ 13：00 休憩

13：00 ～ 15：30

### 【課題研究シンポジウムⅢ】 「コロナ禍がもたらす大学教育の可能性～対象・方法・内容～」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を防止するため、ニューノーマル時代の新しい生活様式として、3密（密集、密接、密閉）回避などの実践が推奨されている。大学においても、これまで主流であった対面授業に加えて非対面授業（オンライン授業）が実践されている。本課題研究では、このような状況にある大学教育の新たな可能性を、2つのサブグループが対象・方法・内容などから多面的に検討する。昨年度は、前半で米国の社会人教育にみられる Competency-Based Education（CBE、成果基盤型教育）について報告し、後半ではコロナ禍以前・以後における学習支援環境や学習支援制度の変化を複数の調査結果から検討した。

今年度は、前半で社会人を主な対象とした教育課程から非対面授業を行う国内の先進事例を取り上げ、学修成果の評価とともに学習支援（コロナ禍への対応を含む人的・物的な学習環境の整備）に注目して報告する。後半では、ニューノーマル時代における学習環境のあり方を検討するため、コロナ禍以前・以後の学習環境を通じた学生の学びや、「学習スペースの評価システム（LSRS）」をもとに新しい時代に対応した学習環境を評価する指標の開発とその実践結果を報告し、今後のあり方に向けて参加者とともに検討を行う。

企画者：

- サブグループ1：塚原修一（関西国際大学）、濱名篤（関西国際大学）、山田礼子（同志社大学）、川嶋天津夫（大阪大学）、森利枝（大学改革支援・学位授与機構）、白川優治（千葉大学）、深澤晶久（実践女子大学）
- サブグループ2：千葉美保子（甲南大学）、村上正行（大阪大学）、岩崎千晶（関西大学）、川面きよ（帝京大学）、浦田悠（大阪大学）、遠海友紀（東北学院大学）、嶋田みのり（東北学院大学）、多田泰紘（京都橘大学）、石井和也（宇都宮大学）

司会者：山田礼子（同志社大学）

報告1：日本の経営大学院の事例報告（仮）

報告者：濱名篤（関西国際大学）

報告2：日本の非経営領域の事例報告（仮）

報告者：塚原修一（関西国際大学）

報告3：大学の多様な学習環境を評価するシステムの開発：LSRS とコモンズの調査結果をもとに（仮）

報告者：浦田悠（大阪大学）

報告4：学習環境を評価するシステムの実践：大学ラーニングコモンズでの学びに着目して（仮）

報告者：多田泰紘（京都橘大学）

報告5：学習環境における学生の学習成果の評価における検討（仮）

報告者：村上正行（大阪大学）

指定討論者：溝上慎一（桐蔭横浜大学）

#### 【課題研究シンポジウムⅣ】 「SDGs の観点から考える男女共同参画・教職協働・働き方改革」

これまで、教育改善をはじめとして、大学改革が、データに基づく成果検証や評価を、個人についても、組織についても求めてきた。それによって、制度改革や評価の方法は定着しつつあるが、業務量の増加や、組織の健全性、大学教職員のワーク・ライフ・バランスやクオリティ・オブ・ライフが議論されることは少ない。そこで、本研究では、SDGs の観点から、大学における男女共同参画・パートナーシップ（教職協働）・働きがい（働き方改革）に注目する。これからの計画としては、学会員へのアンケート調査によって、大学での男女共同参画・教職協働・働き方改革への取り組み状況と個人の幸福感や職場環境との関係を分析し、それらの取り組みが、大学組織に持続的な共生を生み出すための方策を見出す。

企画者：

サブグループ1：清水栄子（追手門学院大学・共通教育機構）・ダガンさかの（金沢大学・融合学域・先端学類）

サブグループ2：奈良雅之（目白大学・保健医療学部・理学療法学科）・福島真司（大正大学・エンロールマネジメント研究所）・前田ひとみ（目白大学・外国語学部・英米語学科）

サブグループ3：吉永契一郎（金沢大学・国際基幹教育院）・上田忠憲（大正大学・図書館情報メディア部）

司会者：清水栄子

1. 趣旨説明・研究計画（研究代表者：吉永契一郎）20分

2. サブグループ1

「男女共同参画の視座」（清水栄子）10分

「国際比較による男女共同参画論」（ダガンさかの）20分

3. サブグループ2

「教職協働・教職協働の視座」（奈良雅之）10分

「SDGs 目白大学の取り組み：教員間連携の視点から」（前田ひとみ）10分

「教職協働論」（福島真司）30分

4. サブグループ3

「働き方改革の視座」（吉永契一郎）10分

「現場から考える働き方改革」（上田忠憲）20分

5. アンケート調査の概要（吉永契一郎）10分

15:40 ～ 16:00 閉会行事

学会副会長挨拶

次年度大会開催校・課題研究集会開催校挨拶

＜課題研究集会実行委員会からのお知らせ＞

1. 参加登録等について

2022年度課題研究集会の参加登録や、当日の参加方法などについては、別途、メールや学会ウェブサイト等を通じてご連絡いたします。学会員の参加費は無料、非学会員の参加費は2000円です。

2. ポスターセッションについて

オンラインでのポスターセッション（Zoomによる同時双方向型の質疑応答）とし、11月26日（土）10:00～12:15に実施します。発表者は10:00～11:00または11:15～12:15の2つの時間帯のいずれかに割り当てます。発表者・参加者ともに、当日の参加方法などについては、別途メールや学会ウェブサイト等を通じてご連絡いたします。

3. 課題研究集会実行委員会の連絡先

課題研究集会実行委員会へのお問い合わせにつきましては、[jacue-kadai2022@jmq.tmu.ac.jp](mailto:jacue-kadai2022@jmq.tmu.ac.jp) にメールでご連絡ください。



## ＝理事会便り＝

(2022年8月27日に2022年度第2回理事会が開催されました。

詳細は、ウェブサイトの会員ページに掲載されます。)

### ● 大学教育学会第44回大会実施報告について

2022年6月4日(土)、5日(日)の2日間、岡山理科大学を担当校として開催された大学教育学会第44回大会は、多数の方にご参加いただき、盛会のうちに全日程を終了しました。今大会は、新型コロナウイルス感染拡大が続く状況ではあったものの、3年ぶりの対面形式、正確には対面形式がメインとなるハイブリッド形式(会員・事前申し込み完了者限定で基調講演・シンポジウムをオンライン配信)での実施となりました。

今回、岡山理科大学のキャンパスで皆様をお迎えし、対面で会員交流の場を持つことができ、終了後の会員のSNS等でも、「数年ぶりに仲間に会えた」、「オンラインでしかお会いしたことがなかった方と初めて面会した」という嬉しいコメントもありました。懇親会の開催は今回も見送られ、飲食を共にし、大学教育について語らうという本学会の伝統は完全に復活できておりませんが、コロナ禍が続く中、一步踏み込んで対面開催としたことで、今後に繋がる大会となったのではないかと思います。

### ● 大学教育学会第45回(2023年度)大会について

2023年度第45回大会は、2023年6月3日(土)・4日(日)に大阪大学吹田キャンパス(一部オンライン配信あり)にて開催予定(共催:大阪大学大学院工学研究科)ですが、コロナウイルス感染拡大の状況により開催形式が変更される可能性もございます。

発表申込み等詳細について、次号(NL122号)にてお知らせの予定です。

### ● 一般社団法人大学教育学会規則改正について

一般社団法人大学教育学会規則第4条第3項に以下の下線部の項目を追加する。

現在、会員関連行事のウェブページ掲載を団体会員に限って受け付けている慣例を明文化し、団体会員の権利を明確にするため。

(1)年2回発行の会誌各2部の配布を受ける。

(以下省略)

(7) 本会のウェブサイトに関連行事情報を掲載することができる。

### ● 大学教育研究力向上委員会主催 オータムスクール2022開催について【会員限定】

今年度は、基礎的な大学教育研究の進め方と量的研究をテーマとして開催予定です。

昨年と同内容の動画視聴による事前オンデマンド研修あり

リアルオンライン研修については、11月3日(木・祝日)9:00～17:00(予定)

詳細は今後、ウェブサイトや会員向け一斉メールで案内されます。

### ● 2023年度新規課題研究募集について

本学会は、1979年12月の「一般教育学会」としての発足直後から、「高等学校学習指導要領にかかわる大学教育の問題」(代表者:扇谷尚、1980-1984)を皮切りに、絶えることなく課題研究を行ってきました。学会の歴史は課題研究の歴史ともいえます。

内規では、こうした課題研究を「学会として大学教育の研究と実践に係る重要な課題を明確にし、組織的に取り組むことで、学会活動と大学教育全体の発展に貢献するための戦略的なもの」と定義しています。

2023年度は、課題研究1件が終了するため、新規課題研究(1件)を募集します。

募集期間は、2022年10月8日(土)～2023年1月31日(火)の予定です。

詳細は今後、ウェブサイトや会員向け一斉メールで案内されます。

# 代議員選挙についてのお知らせ

## 代議員選挙管理委員会

大学教育学会では、定款及び大学教育学会規則(以下、規則という)、代議員選挙管理委員会及び理事・監事候補推薦委員会細則(以下、細則という)の定めるところに従い、2023年4月に代議員選挙を行います。投票期間は2023年4月1日から5月1日までを予定しています。

1. 代議員定数:45名以上55名以内
2. 任期:選任の4年後に実施される代議員選挙終了の時まで
3. 選挙人資格:選挙開始日の2か月前において正会員である者
4. 被選挙人資格:代議員任期満了年度の前年度に正会員であり、当該代議員選挙投票締切日において引き続き正会員である者
5. 投票方法:電磁的方法による投票を基本とし、事前に申し出のあった場合には、郵送による投票も行う。

### ★郵送による投票を希望する方へ

前回の代議員選挙と同様、オンライン選挙を実施しますが、郵送による投票を希望される場合は、事前に申し出る必要があります。

2022年10月31日までに、郵送、電子メールまたはファックスにて、学会事務局までお知らせください。

### ★被選挙人名簿への掲載辞退を希望される方へ

代議員選挙の被選挙人名簿への掲載辞退を希望される方は、2022年10月31日までに、郵送、電子メールまたはファックスにて学会事務局までお知らせください。

郵送による投票の希望、被選挙人名簿への掲載辞退の希望の申し出期日は、作業の都合上、2022年10月31日(月)といたします。期日までにお申し出のない場合は、被選挙人名簿に掲載され、オンライン選挙を希望されるものとしてご登録させていただきます。

### 【連絡・問合せ先】

一般社団法人大学教育学会 事務局

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

Tel/ Fax:(042)707-8112

E-mail:office@jacue.org

## ＝事務局から＝

### ● 会費納入のお願い

今年度(2022年度)会費が未納の会員には、請求書及び郵便払込票を同封させていただいております。過年度分会費の未納がある会員は、速やかにご入金ください。会費のご入金が入金日以降の場合、請求書及び郵便払込票が同封となっている場合がございます。会費納入状況について不明の場合、下記の大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

納入は、下記のオンライン決済、または従来通り郵便払込票(同封)をご利用ください。  
領収書につきましては、オンライン発行をご利用ください。

年会費等郵便振替口座 00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

また、銀行からご入金を希望される場合は、入金前に必ず、下記の大学教育学会 学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

#### <「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先>

大学教育学会 学会業務取扱センター  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401号室  
TEL:03-5981-9824 FAX:03-5981-9852  
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。会費納入状況は、学会ウェブサイト内の会員管理システム内「会費納付状況」からご自身で確認可能です。または、上記の大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

### ● 年会費のオンライン決済の利用方法・領収書のオンライン発行の手順

2018年度より、年会費のクレジットカードによるオンライン決済ができるようになっております。同時に領収書のオンライン発行も可能となっておりますので、ご利用ください。

大学教育学会ウェブサイト・トップページにある会員管理システム内「会費納付状況」もしくは「オンラインクレジット決済システム」どちらかを選択します。

#### <オンラインクレジット決済の場合>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
- ② メニューから「オンラインクレジット決済システム」のボタンをクリックしますと、会費請求額が示されますので、ご確認の上、オンライン決済画面に進んでください。  
\* 過年度分の会費が未納になっている方は、「年会費請求額」および「決済金額」を確認してください。  
\* デフォルトで未納分を合算した請求額を決済金額としていますので、単年度のみ決済を希望される場合は、決済金額を変更してください。この場合、古い年度分から決済されます。
- ③ オンライン決済画面では、決済金額を確認し、クレジットカード情報を入力してください。  
\* クレジットカード情報等の決済内容は、決済代行会社へ送信されるだけで、大学教育学会のサーバーに蓄積されることはありません。また、決済代行会社への通信は、SSL暗号化通信により、通信の秘密は保持されます。
- ④ 未納の会費がない場合は、「未納の会費請求データが見つかりませんでした」と表示されます。

#### <領収書のオンライン発行の手順>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
- ② メニューから「会費納入状況」のボタンをクリックします。
- ③ 年度ごとに納付状況が示されます。領収書の必要な年度の「領収書の発行」ボタンをクリックします。
- ④ その後画面の指示に従ってください。

### ● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員管理システム」内の「会員情報の照会・更新」からご自身でご変更をお願い致します。ID(会員番号)・PWを紛失された方は、大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

## ● 2022年度(第18回)大学教育学会奨励賞の募集について

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。受賞対象者は本学会個人会員です。2022年度(第18回)は、第41第1号から第44巻第2号までの過去4年間の学会誌に掲載された論文が対象となります。応募は自薦・他薦を問いません。

- ① 提出書類 <自薦>論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由(研究の意義・成果など1,000字以内) / <他薦>論文、推薦理由(研究の意義・成果など1,000字以内)
- ② 募集締切 2023年1月10日(火)必着 (締切厳守)
- ③ 送付先 大学教育学会事務局 〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

E-mail: office@jacue.org

※なお奨励賞についての詳細は、「一般社団法人大学教育学会表彰規程」第2章をご確認ください。  
(本学会ウェブサイト内掲載)

## ● JACUEセレクション2023の募集について

大学教育学会では、大学教育の一層の充実発展を図るという観点から、各大学の大学教育改革、効果的な大学教育実践を支援するために、出版社等から応募のあった書籍から優れたものを選定し、「JACUEセレクション」として広く紹介しています。

募集要項は12月上旬に公表する予定ですが、募集締切は、2023年1月10日頃を予定しており、対象書籍は、2021年1月1日～2022年12月31日に出版された大学教育に関する書籍であり、著者もしくは編者に会員(個人会員及び団体会員)が含まれているものに限っています。

これまでのJACUEセレクションについては、本学会ウェブサイトをご参照ください。

## ● オンライン検索サービス提供について

従来の名簿に代わる会員検索サービスは、学会ウェブサイト・トップページ「会員管理システム」内にて、個人会員、団体会員が利用可能です。(会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログイン後ご利用ください。) 検索対象は個人会員のみです。

情報検索項目(基本情報)は、【氏名】、【カナ】、【所属先】、【専門領域】の4項目で検索(部分検索)可能です。その他の項目の開示・非開示については、会員本人の選択項目になります。

## ● メールマガジン受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年数回、大学教育学会メール通信(メールマガジン)を配信しております。ご登録のアドレスにおいて学会アドレスより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願い致します。



### 【大学教育学会事務局】

〒252-0231  
神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204  
Tel/ Fax: 042-707-8112  
E-mail: office@jacue.org  
URL: <http://jacue.org>

### 【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況について】

〒170-0013  
東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401号室  
大学教育学会 学会業務取扱センター  
TEL: 03-5981-9824, FAX: 03-5981-9852  
E-mail: g022lgcs-mng@ml.gakkai.ne.jp